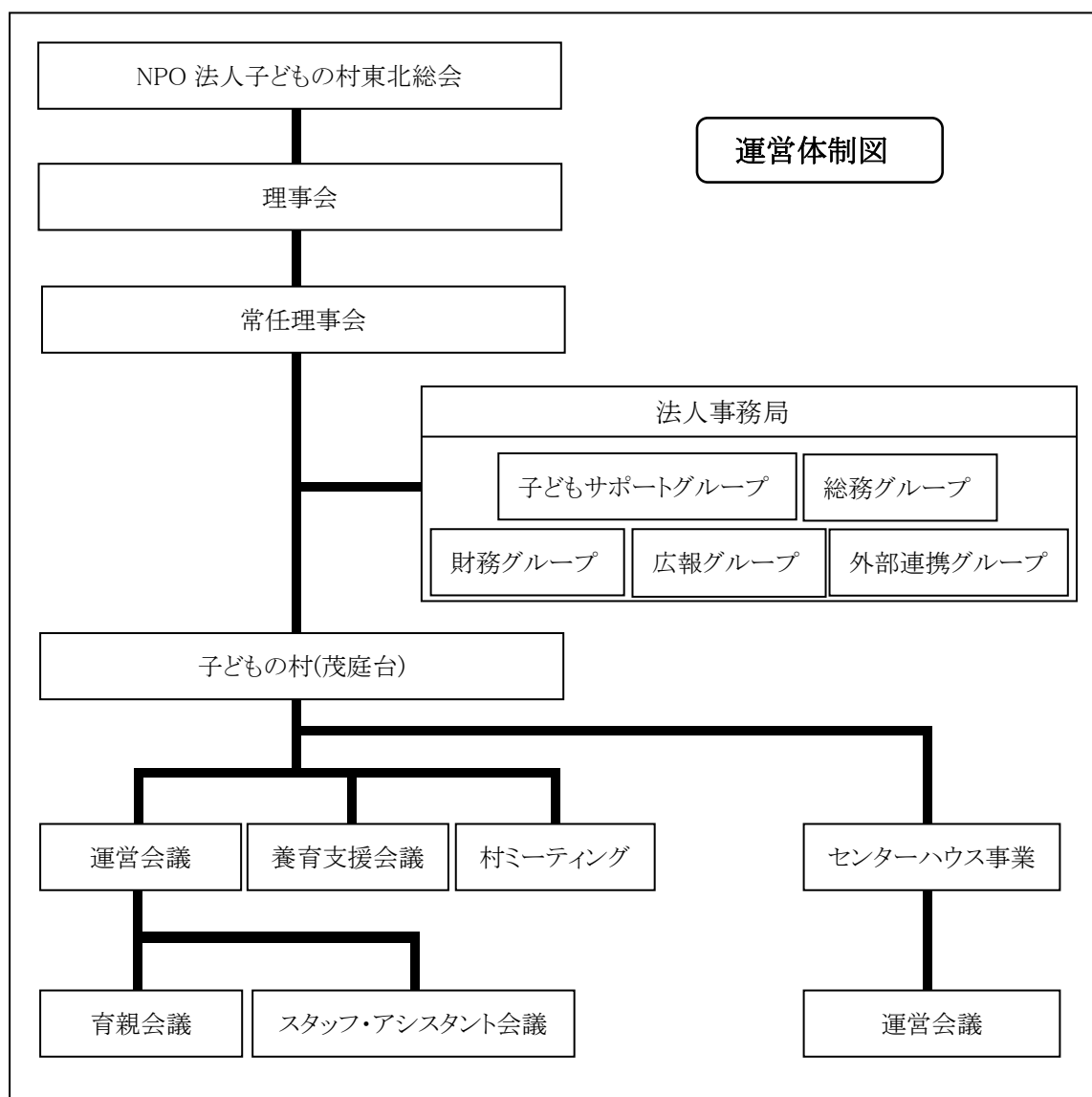


### 3. 事業報告

#### 1) 組織運営体制の強化

- (1) 子どもの村建設では、3月24日の起工式、10月30日の竣工式、12月19日の開村式ため、各々準備チームを設置し円滑な挙行を図った。
- (2) 子どもの村建設に要する資金及び開村後の運営資金開発のため、資金開発プロジェクトチームを設置し、月1、2回の会合を開き、資金開発の強化に取り組んだ。
- (3) 子どもの村開村後の運営体制づくりのため、下記のような体制を構築した。



## 2) 子どもの村建設事業

(1) 子どもの村建設を下記工程・内容で第1期工事を完了した。

2014年3月24日に着工したセンターハウスを皮切りに、家族の家AB2棟は5月7日に着工し村の建設が始動した。第1期工事は、固い岩盤に工程変更を強いられながらも、設計・監理・施工関係者の多大な協力のもと建設が進められた。工程変更による資材調達・職人の手配等、震災後の当該地区の建設業界の情勢を如実に反映した苦労が重なった。そのため、センターハウスの完成を9月末と計画したものの10月末に延期せざるを得なかった。家族の家AB2棟は、10月29日に引渡しを迎えた。家族の家E棟は、資金資材調達等の調整及び工程調整の為に7月4日に着工し、12月18日に引き渡された。

2014年11月より、各棟に家具の搬入・組立てを開始し、11月9日と22日の2回植樹祭りを開催した。

尚、建設にあたっては公益財団法人JKAからの補助金をはじめ多くの企業団体から資金資材の協力を得た。それらの協力なくしては完成はあり得なかったことを改めて感謝したい。

また、設計・監理・施工は下記の体制で進めた。

内容	設計・監理	施工
全般の設計・監理	㈱松本純一郎設計事務所	
センターハウス	㈱針生承一建築研究所	(有)鎌内工務店
家族の家A棟	(有)SOYsource 建築設計事務所	㈱センケンホーム
家族の家B棟	(有)SOYsource 建築設計事務所	㈱センケンホーム
家族の家E棟	㈱鈴木弘人設計事務所	㈱三光不動産

(2) 2014年12月19日開村式を挙行

12月19日には、仙台市太白区茂庭台市民センターを会場に、開村式を執り行った。式典には、厚生労働省・宮城県・仙台市をはじめ、ベルンハルド・ツィムブルグ在日オーストリア全権大使、SOS 国際本部よりクリスチャン・ポッシュ博士、東京大学大学院のロバート キャンベル教授等の来賓を含め約150名の支援者に列席頂いた。式典後は、子どもの村へ移動し、除幕式後に杜のホール及びミーティングルーム・カスケードを使用し村のお披露目のパーティーを実施した。

## 3) 子どもの村(茂庭台)の組織・センター機能の準備、人材養成・確保

(1) 子どもサポート部会

① 子どもサポート部会は、3月までに計8回の部会を開催した。開催年月日等は表の通りである。部会で議論したり実行したことは、開村準備、開村後の運営方法、課題の検討、育親や育親アシスタントの募集や選考、人材育成研修の企画や実施などであった。

### 子どもサポート部会(※出席者はオブザーバーを含む)

	部会名	開催年月日	開催場所	出席者
1	第20回子どもサポート部会	2014年 4月 19日	子どもの村事務局	8名
2	第21回子どもサポート部会	2014年 6月 14日	子どもの村事務局	10名
3	第22回子どもサポート部会	2014年 7月 18日	子どもの村事務局	8名
4	第23回子どもサポート部会	2014年 9月 7日	子どもの村事務局	10名
5	第24回子どもサポート部会	2014年 10月 25日	子どもの村事務局	10名
6	第25回子どもサポート部会	2014年 11月 14日	センターハウス	7名
7	第26回子どもサポート部会	2015年 2月 14日	仙台市シルバーセンター	6名
8	第27回子どもサポート部会	2015年 3月 20日	センターハウス	6名

- ② 入居する育親や里子を支援するため、外部から専門家を招き、センターハウス事業ネットワーク会議を設立した。この会議は4回開催した。開催状況は表の通りである。このネットワーク会議は、外部から精神科医、小児科医、臨床心理士などの専門家を迎え、里子や育親の支援の方法、センターハウスで行う相談事業等の検討を行った。このネットワークを活用した専門家による支援は、2015年度以降本格化する。

### センターハウス事業ネットワーク会議

	会議名	開催年月日	開催場所	出席者
1	第1回専門家ネットワーク会議	2014年 7月 18日	事務局	8名
2	第2回専門家ネットワーク会議	2014年 9月 6日	シルバーセンター	10名
3	第3回専門家ネットワーク会議	2015年 2月 13日	センターハウス	6名
4	第4回専門家ネットワーク会議	2015年 3月 20日	センターハウス	12名

- ③ 子どもの村東北はSOS子どもの村 JAPAN(福岡)から様々な支援を受けてきたが、子どもサポート部としても、村の運営に関するノウハウをSOS子どもの村 JAPANから学んだ。「ノウハウ移転」として、福岡からスタッフを招聘したり、福岡に視察に行ったりした。

### 村運営強化(ノウハウ移転)

	事業名	開催年月日	開催場所	出席者
1	ノウハウ移転視察・見学	2015年 3月 27-29日	子どもの村福岡ほか	2名

- ④ 入村の対象となる震災孤児の実態については、三菱財団からの研究助成により、2013年10月から震災孤児を養育する親族里親の現状調査を行なった。東北3県の児童相談所の協力を得て、2014年1月に調査を実施した。同助成は2014年9月末に終了し、調査結果は「震災孤児を養育する親族里親の現状調査と支援のあり方に関する検討」の報告書としてまとめた。

(2) 人材研修・人材募集・人材確保等

- ① 第3年度は、4回の人材養成研修(公開講座)を行った。1回の参加者は平均37.5名で、昨年度同様、好評を得た。また、里親会との連携が図られたことで、地域の里親や児童養護施設の職員、その他関係諸団体や行政職員の参加が増えた。

人材養成研修(公開講座) 2014.4月～2015.3月末

期	研修内容	講師名	開催年月日	参加者
II	「里親養育の基本」	山崎 剛 氏	2014年4月19日	34名
	「発達障害、被虐待の子どもたちをどう養育するか」	横山 浩之 氏	2014年8月30日	40名
	「私は育てられた、私は育てる」	森 茂起 氏	2014年9月7日	31名
III	「性的問題行動を示す、子どもへの支援」	岡本 正子 氏	2015年3月7日	45名

- ② 人材募集、人材確保について、村長、育親及び育親アシスタントの募集を研修会のたびに広報したり、ホームページを活用して公募した。書類や面接による一次選考、子どもの村福岡や県内ファミリーホームでの実地研修後の二次選考の結果、12月の開村時には、村長、センタースタッフ、育親2組、育親アシスタント2名が決定した。子どもが暮らす「家族の家」は3棟建設されており、現在育親1名を募集中である。

実地研修等

実地研修	福岡実地研修	SOS子どもの村 JAPAN (子どもの村福岡)	2014年8月5～9日	参加者8名
	宮城実地研修	ざおうホーム 愛子園	2014年9月27, 28日	参加者6名

(3) 村の運営組織作りと子どもの受け入れ、養育開始

開村の準備段階から村長を中心として運営チーム作りが図られた。12月の開村時は、村長、センタースタッフそれぞれ1名ずつ、育親2組、育親アシスタント2名となり、村の運営を開始した。村長を中心として、村の運営会議、育親会議、養育支援会議等の運営組織が設立された。

村に入村している児童等は、現在3名である。

(4) センターハウスネットワーク事業

前述のとおり。

#### 4) 子どもに関わる個人・団体・企業・その他関係機関等との連携

##### (1) 「絆」連絡会

子どもに関わる関係機関、関係団体等との連携では、宮城県、仙台市、児童相談所など、行政との「絆」連絡会を下記の通り開催した。開村年度ということもあり、具体的な子どもの受け入れ体制や各関係機関との役割分担、連携のあり方について協議した。

##### 「絆」連絡会

	開催年月日	出席機関	場所
1	2014年 6月27日(金)	宮城県・仙台市・各児童相談所／サポートG	事務局
2	2015年 11月 14日(金)	宮城県・仙台市・各児童相談所／サポートG	センターハウス

##### (2) 「もう一つの絆」との協働、フォーラムの開催

6つの団体が協働して行う「もうひとつの絆」プロジェクト(里親普及・里親支援事業)は養育里親更新研修(宮城県里親会・仙台市里親会・宮城県・仙台市・SOS 子どもの村 JAPANとの協働事業)の企画・運営を行い、さらに、第6回もうひとつの絆フォーラムを開催した。

##### 平成 26 年度 養育里親更新研修(仙台市・宮城県)

開催年月日	場所
2014年 9月 6日(土)	仙台市シルバーセンター

##### 第6回もうひとつの絆フォーラム 参加者 85 名

開催年月日	講師名	場所
2015年 2月14日(土)	基調講演: 林 浩康 氏 (日本女子大学教授) 基調報告: 宮城県中央児童相談所	仙台市 シルバーセンター

##### (3) 里親会、施設などとの連携、支援体制づくり

- ① もう一つの絆プロジェクトによる協働事業やこどもの夢ネットワークとの連携により、里親会とのつながりが強化され、家庭養護を推進するため下地ができ始めた。
- ② 前述したように、子どもの村Japanから村運営のノウハウを学び、地域の関係機関との連携のあり方、会議の持ち方、記録の取り方等について、村運営に反映させた。

##### (4) 地域でともに育てる連携づくり

- ① 開村した仙台市茂庭台での地域連携については、町内会や民生委員の方々と情報交換を行った。町内会行事への参加、子どもの村東北を利用しての活動の実施(餅つき行事等)など、連携が深まりつつある。4月12日には茂庭台二丁目町内会総会をセンターハウスで行うこととなり、地域の資源として活用していただく予定である。

- ② ボランティア体制については、竣工式、開村式などで支援者や地域の方々の協力を得ることができた。また、今後はボランティアの活動内容が多岐にわたることから、体制をより具体性のあるものへ作り変えていくこととなった。
- ③ 宮城県子育て支援会議への参加や国連防災会議の協働参加などを行った。子ども支援団体や沿岸部地域との交流が図られた。開村時期ということもあり、限定的なものとなったが、この一年間で重層的な関係性を構築することができた。

## 5) 子どもの権利と社会的養護に関する情報提供・啓発事業

社会的養護が必要な子どもが存在すること、そしてその子どものための「子どもの村東北」の建設・運営に関する情報を発信した。

### (1) 新規支援会員の確保、支援会員の支援継続のための活動

新聞・雑誌などによるメディア、「子どもの村東北」発のニュースレターやホームページなどによる情報発信により、新規支援会員の確保と拡充を進め、支援会員からの支援継続を強化した。

### (2) ニュースレターの刊行

子どもの村東北 “News Letter” Vol.6、Vol.7、Vol.8、Vol.9 を刊行した。

	発行日	内容(概要)
Vol.6	2014年 4月10日	「子どもの村東北」建設始まる、一層のご支援を！
Vol.7	2014年 7月10日	「第3年度総会」が開催されました
Vol.8	2014年11月17日	子どもの村東北、開村迫る！
Vol.9	2015年 1月31日	「子どもの村東北」開村しました

### (3) ホームページ及びフェイスブックの継続的な更新

子どもの村東北「ホームページ」及び「フェイスブック」に、随時、活動報告を掲載し、「子どもの村東北」の現状を伝えた。

<http://soscvtohoku.org/>     <https://www.facebook.com/soscvtohoku>

### (4) 広報ツールの改訂

「子どもの村東北」パンフレット(A4版カラー10頁)およびリーフレット(A4版カラー)の改訂を行い、「子どもの村東北」人材研修会及び「もうひとつの絆」フォーラム等の研修会開催時等における「子どもの村東北」の広報宣伝活動に役立てた。

### (5) 街頭広報・募金活動

「子どもの村東北」が開村し、その運営のための広い支援を得ることを目的とし、2015年3月26日、理事長及び村長ほか、ボランティアのご協力も得て第1回目の街頭広報・募金活動を行った(仙台市東二番丁中央通り)。

(6) 地域広報活動

茂庭台学区町内会連合会の代表者には「子どもの村東北」竣工式にご参加いただき、町内会のみなさまを対象とした「子どもの村東北」内覧会を企画した。

- ・竣工式：2014年10月30日
- ・内覧会：2014年12月6日

(7) 報道関係各社への広報活動

新聞・雑誌などによる情報・啓発活動を目的として、「子どもの村東北」建設現場公開、「子どもの村東北」村長決定、「子どもの村東北」竣工式、「子どもの村東北」開村式へご案内した。

- ・2014年7月29日 「子どもの村東北」建設現場公開のご案内
- ・2014年9月1日 「子どもの村東北」村長決定のお知らせ
- ・2014年10月30日 「子どもの村東北」竣工式のご案内
- ・2014年12月18日 「子どもの村東北」開村式のご案内

(8) 新聞・雑誌の広告・記事掲載等による広報・啓発活動

雑誌「仙台経済界」 2014年5/6月号から2015年3/4月号まで（合計6回）

新聞社「河北新報」 2014年4月29日から2015年3月29日付けまで（合計7回）

(9) そのほかの広報・啓発・募金活動

○ 雑誌への投稿・掲載

- ・震災特集「子どもの村東北」が開村しました。公衆衛生情報みやぎ 2015;442:1-4
- ・「子どもの村東北」と食事。日本栄養士会雑誌 2015;58:1.

○ コンサート・イベント

- ・2014年5月31日 コア・ドゥ・ロゾー コンサート
- ・2014年10月29日 ステラ・ムジカ チャリティコンサート
- ・2014年11月8日・29日/2015年3月28日 原田治子 チャリティコンサート
- ・2015年1月25日 猫八・子猫 チャリティコンサート
- ・2015年3月7日 国際ソロプチミスト愛知ガーデニアチャリティイベント

○ 学会・研修会

- ・2014年6月14日・15日 日本小児科医会学会PR活動(田澤理事)
- ・2014年7月18日 ガールスカウト宮城県支部団員長会議卓話(岩城常務理事・宮本理事)
- ・2014年7月24日 仙台宮城野ロータリークラブ例会卓話(飯沼理事長)
- ・2014年8月19日 宮城県立石巻支援学校卓話(今野理事)
- ・2014年8月27日 日本生産技能協会会員交流会卓話(今野理事)
- ・2014年9月12日 東北異業種交流会卓話(今野理事)
- ・2014年10月3日 仙台幼児保育専門学校卓話(今野理事)
- ・2014年11月11日 仙台広瀬倫理法人会卓話(今野理事)
- ・2014年11月13日 宮城水産高校職員研修卓話(今野理事)

- ・2014年 2月 5日 石巻市立万石浦小学校職員研修卓話(今野理事)
- ラジオ
  - ・2014年 7月 8日 新潟放送FMポート(今野理事)
  - ・2014年10月10日 NHK仙台ラジオ(飯沼理事長)

(10) 著名人からの広報支援の獲得

東京大学大学院教授のロバート キャンベル氏から、広報面においてメッセージや写真掲載の協力を得られた。さらに、2015年7月3日には、福岡市において「子どもの村福岡5周年・子どもの村東北開村記念講演会」においても講演して頂けることになっている。

## 6)「SOS子どもの村JAPAN」との連携

SOS子どもの村JAPANと子どもの村東北は、SOS子どもの村インターナショナルに加盟するため、加盟の条件である「1国1法人組織」に沿うため、子どもの村東北が開村後、法人を解散し、SOS子どもの村JAPANに合流することとして準備を進めた。

しかしながらSOS子どもの村JAPANと所轄官庁との折衝のなかで、子どもの村東北が非認定NPO法人であるため、その状態で合流するとSOS子どもの村JAPANの認定が取り消されることが明らかになった。このため子どもの村東北が認定NPO法人の資格を得るまで合流を見送ることとした。

これに伴い、子どもの村東北は、2014年10月に予定していた臨時総会開催を中止し、解散決議を延期することとした。

## 7)資金づくりの取り組み

(1) 建設資金の確保

子どもの村東北のセンターハウスと家族の家3棟を建設する第一期工事の必要な資金を確保するため、当該地区に止まらず広く全国に協力要請活動を展開した。具体的には、マスメディアによる情報発信、新聞・雑誌等への出稿、企業・団体訪問、各種会合に於ける講演・卓話、チャリティーコンサートへの協力、各種イベントにおける募金などを積極的に行った。その結果、ドイツ、カナダなど海外からの支援金もあって、12月の開村式前後までに第一期工事並びに関連資金をほぼ確保できた。

尚、第一期工事の建設並びに関連費用は総額 261,568 千円であった。この中で、219,074 千円は寄付並びに公益財団法人JKAからの補助金であり、42,494 千円は工事、設備・備品等での協力である。



## (2) 運営資金の確保

子どもの村東北の運営資金を安定的に確保することは極めて重要な課題であり、その方策の検討と実践に取り組んだ。具体的な方策として、支援会員の増大、一般寄付の拡大、募金箱の設置増大、飲料自販機の設置拡大などを進めた。また各種機関による助成金の確保に取り組んだ。その結果、各取り組みが十分な成果とはならなかったものの当年度における事業に要する資金は確保できた。但し、次年度以降事業の拡大を可能にするためには更なる取り組みの充実強化が必要である。

○ 主たる指標	・支援会員数	個人	目標:600 人	実績:550 人
		企業・団体	目標: 70 社	実績: 36 社
	・募金箱	設置数	目標:200 個	実績:201 個
	・飲料自販機	設置数	目標: 20箇所	実績: 7 箇所